

# 九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol.  
**124**  
2022 Apr.



九州大学広報室  
TEL:092-802-2130 E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学学生後援会  
TEL:092-802-5968 E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学同窓会連合会  
TEL:092-802-2158 E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

指定国立大学法人【特別企画】

## 総長×若手研究者 座談会

特集

広報室学生スタッフがドキドキしながら  
12学部の先生を取材してみた！



# 社会変革の波を福岡・九州から、 日本、アジアそして世界へ

## ～2030年に九州大学が目指す姿～

九州大学は、2021年11月22日付けで文部科学大臣より「指定国立大学法人」の指定を受けました。  
九州大学が2030年に向けて目指す姿は、多様な「知」と「人材」を結集して、新たな価値創造の基盤となる研究とイノベーションの創出を牽引し、自然科学系と人文社会科学系、さらにはデザインを加えた知による「総合知」によって、社会的課題の解決とそれによる社会・経済システムの変革に貢献する「総合知で社会変革を牽引する大学」です。

今回の構想では、本学の強み・特色を生かし、「脱炭素」、「医療・健康」、「環境・食料」をエンリポイントとして最先端研究で社会的課題に取り組むこと、デジタルトランスフォーメーション(DX)で社会変革を牽引することを最優先取組として設定しました。

これらの取組を多様なステークホルダーと共に推進し、社会変革の波を福岡・九州から、日本、アジアそして世界へと広げ、持続可能な社会の発展と人々の多様な幸せ(Well-being)を実現できる社会づくりに貢献します。

# Kyushu University VISION 2030 を策定

指定国立大学法人として目指す姿を2030年までに実現するため、  
8つのビジョンを掲げ、各取組を推進します。

- VISION1 ガバナンス** 自律性と多様性を備えたガバナンスで、持続可能な経営体への変革を図る。
- VISION2 DX** 新たな価値を次々に生み出すデータ駆動型の教育、研究、医療を展開し、人々に真の豊かさをもたらす未来社会の実現に取り組む。
- VISION3 教育** 新たな社会をデザインする力と課題を解決する力を有し、グローバルに活躍できる価値創造人材を育成する。
- VISION4 研究** 学術基盤研究から社会変革に貢献する展開研究まで広く研究力を強化し、国際競争力を高めるとともに社会的課題の解決に貢献する。
- VISION5 社会共創** 知の拠点として地域社会やグローバル社会と共生・共創し、研究教育活動を通して社会の持続可能な発展と人々のウェルビーイングの向上に貢献する。
- VISION6 国際協働** 組織的な国際協働を通じて、国際頭脳循環のハブとなり、国際社会においてリーダーとなる人材の輩出及び地球規模の課題解決に貢献する。
- VISION7 医療** 志の高い優れた医療人の育成に努め、最先端医療の創出と質の高い診療の提供に尽力し、人々の期待と信頼に応える最善の医療を追求する。
- VISION8 財務基盤** 多様かつ安定的な財源の確保と運用を行い、持続的・自律的な経営を実現する。

# 九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

Vol.124 / 2022 Apr.

- 編集・発行：九州大学広報室  
〒819-0395福岡市西区元岡744
- TEL:092-802-2130 FAX:092-802-2139
- E-mail:koho@jimukyushu-u.ac.jp
- Webサイト:https://www.kyushu-u.ac.jp/
- 印刷：凸版印刷株式会社
- 編集協力・取材：永井直美
- 撮影：スタジオ サラ
- デザイン：株式会社ライトブレイン

◎お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。  
◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。  
◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。

### 表紙「春の訪れ、一面の菜の花畑」

- 撮影場所／福ふくの里
- 撮影日時／2022年2月24日(木)

## CONTENTS

02 指定国立大学法人【特別企画】  
総長×若手研究者 座談会

07 [特集]  
広報室学生スタッフがドキドキしながら  
12学部の先生取材してみた!

13 世界から九大へ 九大から世界へ

15 現役九大学生 >>> 卒業生インタビュー

17 Connect with Alumni

19 九州大学基金 43

21 [Museum Report] 箱崎だより ～昆虫標本開示室の標本資料～  
「世界の美しい昆虫」

22 広報室学生スタッフ紹介

※記者会見レポート、KYUDAI TOPICSは  
掲載を終了させていただきました。

# WISLON

Kyushu University



指定国立大学法人  
[特別企画]

## 2030

### 総長 × 若手研究者 座談会

「総合知で社会変革を牽引する大学」の実現のために策定した九州大学のビジョン。具体的に何が必要で、私たちは何をしていけば良いのだろうか？ 石橋総長と若手の研究者で率直な意見交換を行いました。



芸術工学研究院  
ながつ ゆういち ろう  
**長津 結一郎** 助教

専門はアート・マネジメント、文化政策学。障害のある人などの多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行っている。東京藝術大学助手を経て、2016年4月より現職。

システム情報科学研究院  
ヴァスコンセロス ヴァルガス ダニロ  
**VARGAS DANILO** 准教授

専門は汎用人工知能 (AGI)、認知アーキテクチャなど。ロバスト性と適応性を持つ次世代の人工知能 (AI) の開発を目指し研究を行っている。九州大学助教を経て、2020年1月より現職。

薬学研究院  
かとう ゆり  
**加藤 百合** 助教

専門は生化学、薬理学。現在は、COVID-19の重症化の予防・治療に資する創薬の研究に取り組んでいる。岡山大学特任助教を経て、2020年1月より現職。

経済学研究院  
ふじい ひでみち  
**藤井 秀道** 准教授

専門は日本経済論、環境経済学。持続可能な社会に向けたイノベーションの創出や、環境保全と経済発展を両立させるために必要な政策・制度を研究。長崎大学准教授を経て、2018年4月より現職。

いしはら たつろう  
**石橋 達朗** 九州大学総長

専門は眼科学。九州大学医学部卒業。米南カリフォルニア大学研究員、九州大学大学院医学研究院眼科学分野の教授などを経て、2014年から4年間、九州大学病院院長を務める。2020年10月より現職。

## みんなで考える 「これからの九大」

今ある九大の良さってなんだろう？

総長 指定国立大学法人\*の指定を契機に、九大が目指す姿の実現のため「九州大学ビジョン2030」を策定しました。10年後、その中心となるのは今日集まっていた先生方をはじめとする若手研究者の皆さんです。九大が目指す姿というテーマが大きすぎて皆さんイメージがしにくいと思うのですが、一人一人がどう変わっていくべきか、今日は忌憚のない意見を聞かせてください。まずは、他大学に在籍されていた経験がある皆さんから、九大の良さを教えてくださいませんか？

加藤 何より実験機器などの共用機器施設の充実ではないでしょうか。一つのラボでは買えないような高額な実験機器を使うことができ、やりたい実験をほぼこなすことができ助かっています。

藤井 海外の優秀な学生がたくさんいて、知的交流があるところだと思います。

長津 私は普段大橋キャンパスにいたので、以前は距離的にも心理的にもメインキャンパスである伊都キャンパスが遠いなあと感じていました。ですがここ数年で変わってきた気がします。

総長 コロナ禍がきっかけではありますが、ICT環境が整い、以前よりオンラインで気軽につながることができるようになったのもありますね。距離や時間の問題が解消され、キャンパス間でも連携しやすくなりました。

藤井 組織が大きいだけに大企業病的なところもあるのですが、チャレンジ精神とトップのリーダーシップが必要だと考えています。その点、本学は意思決定も早く、折に触れ石橋総長の考えを教職員に説明いただけるのはいいことだなと思います。

社会を変えていくには どうしていけば良いのだろうか？

総長 先生方はご自身の研究を通して、日々社会

とどのように向き合い、取り組んでいらっしゃるのでしょうか？

藤井 私の専門は日本経済論と環境経済学です。自分の研究を社会にどう活かすか考えたとき、教員が個別に論文を書いて政策提言まで持つだけでなくでは限界があると感じていました。昨年、新聞での私の研究の連載後に企業をはじめ様々な方面から問合せがありました。メディアなどで一般の人に研究を分かりやすく紹介していけば、共同研究のチャンスも広がり、社会実装を経て政策提言につながるのではないかと思います。また、九大に移ってきた時、将来活躍する人材を育てたいと考えていました。大学院教育により重点を置き、学生指導を通じて多くの研究成果を創出するとともに、次の世代を担う研究者の育成を目指しています。

加藤 私は現在、COVID-19に効く治療候補薬を探求し、臨床に持っていけるよう研究しています。ところが、基礎研究の成果を実用化へと進め、特許の取得まで行うには基礎研究の知識だけでは難しく、専門的なアドバイスが必要です。九大の医学系分野には、幅広い領域の専門家がアドバイザーや業務支援を行う「ARO次世代医療センター」があり、こうした専門を超えた組織の存在がとても重要だと思っています。

総長 九大では、本学の知識や技術だけでなく、自治体や企業などが持つ技術やアイデアなどを組み合わせ、イノベーションを起こすオープンイノベーション機能を強化しています。特許の取得は、研究者一人ではできないものではありません。大学としても支援しますのでぜひ相談してください。

ダニロ 私は、人工知能の基礎研究が専門ですが、脳科学の実験から分かる事もあるのではないかと考え、幹神経細胞を使って脳の動きの観察を始め、心理学を応用した研究も進めています。また社会実装を意識して企業との共同研究にも力を入れています。

### 指定国立大学法人

指定国立大学法人とは、世界最高水準の研究教育活動の展開が見込まれる国立大学法人を文部科学大臣が指定するもので、本学を含め10校が指定されている。

<https://dnu.kyushu-u.ac.jp/>



### ARO次世代医療センター

国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)「革新的医療技術創出拠点プロジェクト」の拠点として様々な大学発の《シーズ》を探索・支援。研究者、関連団体、企業の方を対象に、試験立案から出口戦略まで研究支援を行っている。

<https://www.aro.med.kyushu-u.ac.jp/>



### わかばチャレンジ

九州大学の若手研究者が主体的に実施する「挑戦的」な研究(基礎研究・応用研究の別は問わない)を支援する制度。「挑戦的」とは、現時点での確証はないものの、将来的に目覚ましい成果を上げる可能性を秘めた研究計画を指す。

<https://wakate.kyushu-u.ac.jp/support/>



長津 私は、芸術の分野を社会とどのようにつながるかというアートマネジメントや文化政策をテーマに研究しています。現在は九州の劇場とタッグを組んで、どうすれば劇場空間で障害のある人が表現しやすくなるかリサーチするプロジェクトや、過疎や高齢化などの社会的課題がある地域で住民の人たちと一緒に作品を作りながら、芸術の果たす意味を考えるプロジェクトなどを行っています。社会のプロセスや出来事を、どのようにデザインし直していくかという研究ですので、今回大学が掲げたビジョンとは接点を感じています。

### データを示していくだけでは社会に届かない

### 新たな価値を生み出すDX研究・教育

総長 ビジョンの中ではDXも掲げていますが、皆さんはどう考えていらっしゃいますか？

ダニロ データは様々なところで多目的に利用できると思いますし、収集したデータを相互利用するといったこともあります。色々な側面から追究すれば、社会変革につながる新しい価値を創造できるのではないのでしょうか。

藤井 私は、DXには大きく二つの役割があると思っています。一つは、これまで見えなかったものを見る化する。例えば、最先端技術を使っている人々の幸福感(ウェルビーイング)を測る研究が進んでいます。センサーで定期的に情報が取れるので、社会的課題と紐づけながら、いかにして人々の幸福度を高めるか、科学的知見が容易に得られます。もう一つは、複雑化した社会の因果関係を解明して、限られた予算や人員をどこに重点的に配分するかを戦略的に考える上で役立つと思います。

長津 私が担当する学部教育の授業では、社会的課題にアプローチするアプリ制作を課題にしています。そこでは、ただデータを示していくだけでは社会に届かないと伝えていきます。重要なのは、とっぴいこうと思っています。

加藤 ありがたいことに私は若手研究者を対象にした「わかばチャレンジ」に採択されました。これまで大学内の若手研究者を対象にした金銭的な支援制度を聞いたことが無かったため、九大は充実しているなと思いました。

ダニロ 問題なのは、補助金を獲得できたとしても予算の使い道に柔軟性がないことです。私の研究は、電気代だけで100万円かかります。その100万円を確保しなければ研究室の運用もできないのですが、経費の制約があつて電気代が補助金では使えないのです。

長津 理論系のもや作品作りにはなかなか外部資金が付きません。以前、大学マネジメントの話を書く機会があつたのですが、理工系や生命系の得られやすい研究分野で獲得した資金を人文系に回すべきだという話がありました。文系や芸術系が存在してこそ総合大学なので、バランスをとることも大事だと思います。九大は人文社会科学系の研究支援を推進してくれていますので、どんどん拡充してほしいですね。

総長 新たな教員の雇用を推進する制度でも、人文社会科学系の枠を作りました。社会実装によって得られた資金をまず大学に入れ、そこから人文社会科学系を含め必要ところに配分するという循環を作っていくことも必要ですね。

データをどう「使いこなす」か。これは芸術工学部が提唱してきた「技術の人間化」の考え方で、

### 九大を変えていきたい！

総長 ところで、大学への要望はありませんか？

加藤 先ほど実験機器の話をしました。これらは担当の先生が複数の高額な機器を管理されていて負担が大きいです。

総長 そこは我々も課題と認識していて、機器や技術職員は全学でマネジメントした方が良いのではと話しているところです。

長津 私の場合は作品を作ったりプロジェクトを運営したり、社会実装していく研究でもあるので、自治体や文化庁、厚労省など学外の人たちと関わる人が多いのですが、このような活動は評価が難しいと感じます。教員の評価基準も多様性が必要じゃないでしょうか。

総長 確かに、評価基準を考える必要がありますね。

藤井 私は時間をすごく買いたいです！(笑)私には2歳と5歳の子どもがいて、育児と研究の両立に悩んだ時期もありました。今はうまく気持ちを切り替えています。時間の使い方でいうと、これからは教育と研究活動の両立がより求められると思います。

ダニロ 私も、授業の担当が増え、指導する学生も増えてきているので、なかなか自分の研究時間の確保に苦労しています。授業、学生指導、研究のエフォートを可視化して、それぞれのバランスを取ることができるような仕組みがあるといいなと感じます。

総長 研究費用についてはいかがですか？

藤井 正直仕事がついてこないお金だと良いのですが(笑)、とはいえ共同研究等は研究に制約がつかぬもあり、自分にとってどんなプラスがあるかを考えてターゲットを絞っています。科研費は自分のやりたい研究に使えますので積極的に

### 多様な価値観を受け入れる

### 私たちが学生たちに背中を見せていきたい

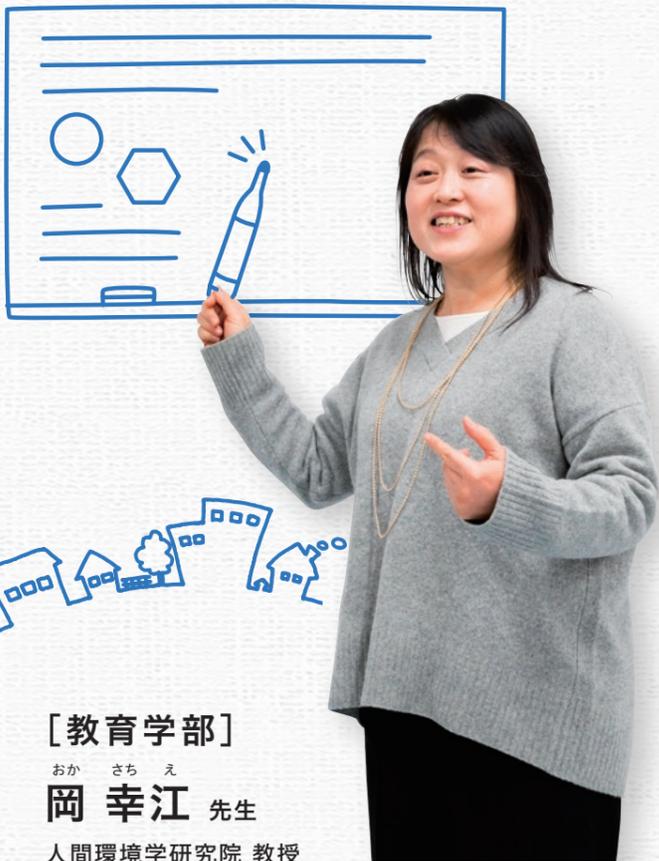
長津 私は、ダイバーシティの視点も忘れてはいけないと思います。ジェンダーやLGBTs、障害や国籍の問題などに積極的に取り組むことが、結果的に創造的なものが生まれやすい環境にもつながると思います。多様性に関する考え方は学生の方が進んでいるところもあります。学生に根底の部分の安心感をもたらすためにも、ダイバーシティは欠かせない視点だと思っています。

加藤 そうですね。その観点で言えば、薬学では現在女性の教授がいません。私も含め30〜40代が多く、特にワークライフバランスを意識している世代です。ですから私たちが研究を続けている背中を見せなければいけないと思っています。そうすれば、進学しようと思う女子学生も増えると思うんですね。

総長 九大が成長するためには、若手の先生方の成長が不可欠です。そこにもダイバーシティが欠かせません。若手の先生方とその後続く学生の皆さんの成長を期待していますし、私たちはそこをしっかりサポートしていきたいと考えています。2030年に向けて共に一歩を踏み出しましょう。本日はありがとうございました。



この取材は2022年1月25日、九州大学伊都キャンパスのフジイギャラリーで行いました。



**[教育学部]**

おか さち え  
**岡 幸江** 先生

人間環境学研究院 教授  
担当科目: 生涯学習概論演習

**「歩く・見る・聞く」を  
自分自身で経験する**

生涯学習・社会教育が専門の岡幸江先生。2021年度は「Withコロナ時代の地域社会教育実践を考える」をテーマに、久留米市の地域施設と「オンライン公民館」の調査を行いました。演習では調査をする上で重要な「歩く・見る・聞く」を学生自身が経験！インタビュー調査や議論では、どんどん話が盛り上がっていきます。先生は「動く現場が学生の力を引き出す」と感じており、魅力的な出会いの場を作ることに力を注いでいるのだとか。自身の社会教育を研究し教える立場から、その実践として相互教育の場を作りたいという先生。「教員が学生の力を信じて感動することが、次の授業の力となってさらに学生に伝わる。そうして相互教育の場が生まれる」と話します。教育学とは「教育実践・教育事象を相対的に見る目」を身につけるもの。教員養成とは異なる視点から多くを学べます！

**[特集]**

**広報室学生スタッフが  
ドキドキしながら12学部の  
先生取材してみた!**



**[法学部]**

そのだ あや の  
**園田 彩乃** 先生

法学研究院 助教  
担当科目: 法政基礎演習

**模擬事例や実際の事案から  
法的アプローチを学ぶ**

弁護士として活動しながら、法学部で教鞭をとっている園田彩乃先生。弁護士としての実務の視点を取り入れつつ、模擬事例や実際の事案を元に講義が行われます。例えば冤罪事件であれば、裁判が長期にわたり、それに伴い勾留期間が長くなるため、被告人の自由も長期間奪われるといった特性があり、裁判の制度的な面についても考える点が多くあります。事案を通して示された視点は、学生が新たに調べ考えるきっかけに。もし、裁判に関わるとしたらどう考えるか、結論だけに注目するのではなく「学生1人ひとりがどのようなプロセスで考えたか」が大切だと園田先生は話します。

裁判の手続きのみでなく、法律の条文をどう解釈するか、法律の趣旨から考えて事案ごとにどこまで適用できるか、問題を解決するためにどう考えていけば良いのかなど、法的アプローチ思考がしっかり学べます。



**[文学部]**

エレン・ヴァン=フーテム  
**ELLEN VAN  
GOETHEM** 先生

人文科学研究院 准教授  
担当科目: International Humanities:  
Introduction to Japanese History

**グローバル時代に欠かせない  
外国の言葉や文化を学ぶ**

「他国に対する尊敬の心を持つため、そして日本人も外国人も共生するために、文学や文化、言語を学びましょう」こう語るのは、ベルギー生まれのエレン・ヴァン=フーテム先生。父の影響でアジアに興味を持った先生は母国で日本について学びました。文学部では、主に国際コースの学生に向けて、古代の宗教や歴史について教えています。この2年は、新型コロナウイルスの影響で対面の授業ができずとても寂しいと、エレン先生。

先生の講義の魅力は、学生それぞれに、専門や興味が異なるため、その時々に合わせて講義内容から少し脱線したお話を聞けたり、持ってきてくださる関連のミニチュアを見て触れながら学べること！そうするうちに学生たちが、次第に興味を示すようになることが先生の活力の源なのだとか。

「グローバルな問題は、国ごとでは解決できない上に、国同士が協力するためにも、外国の言葉や文化の学習は欠かせない」と話します。



**[共創学部]**

かん いつ じゅん  
**姜 益俊** 先生

共創学部 准教授  
担当科目: 遺伝学と進化

**メダカの動きで水質を調査  
状況に柔軟に対応し  
自分で考える力を鍛える**

生態毒性学が専門の姜益俊先生は、安全な水質環境実現のため、メダカの動きから水質を調査する研究をしています。民間企業に就職し、他分野との協働研究や営業など、多くの経験から専門知識だけではなく、新しい状況に柔軟に対応するには、「自分で考える力」をもつことが重要だと痛感したそう。そのため、先生の講義は、基礎知識を教えるだけでなく、そこから考えられるものは何かを常に学生に問いながら、授業を進めます。授業中はどんどん意見を求められ、多くの学生発表とフィードバックから、学生自身が「自分の考えをもつ力」を鍛えられるなど、非常に刺激的です！姜先生は「進化とは関係のない学問分野に進んだとしても、人間も生物も一緒に進化しているということを頭に置きながら、考えられる人になってほしい」とのこと。

どんな講義をしてるのかな？



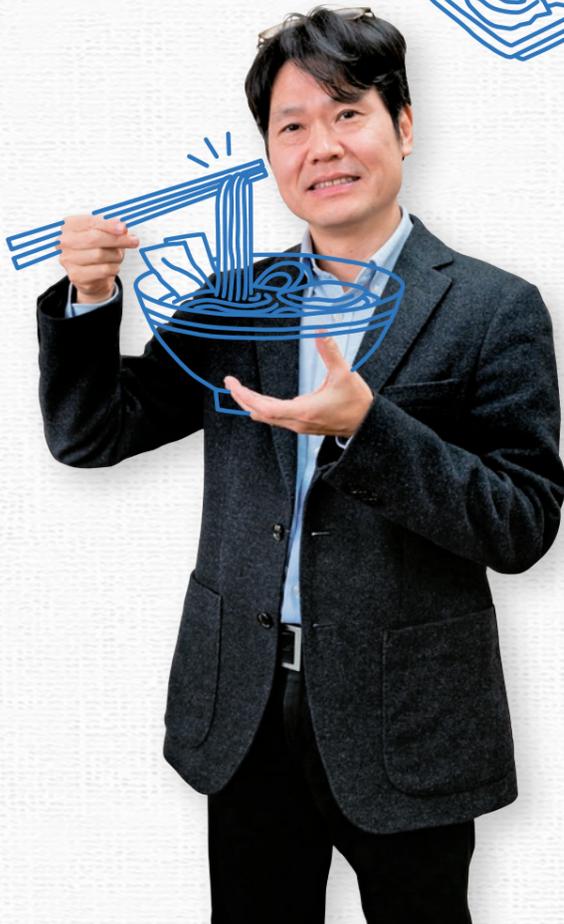
## [医学部]

みや た じゅん こ  
**宮田 潤子** 先生  
医学研究院 講師  
担当科目:小児疾病論

### 「何が起ってどんな症状が起こるのか」 理論を丁寧に学ぶ

小児外科医として活躍し、患者さんの生の声を捉えた支援を目指して、セミナー等を積極的に開催する宮田潤子先生は、看護学の教員という一面も。看護学の講義は、国家試験のための暗記量が多いのですが、より深い記憶の定着を目指す宮田先生の講義では、「何が起ってどんな症状が起こるのか」という理論を丁寧に教えてもらえます。学生にはよく「医療の最前線でリーダーとなれる広い視野を身につけてほしい」と伝えているそう。そのため、1年生が受ける基幹教育も倫理や国際交流など幅広い学問に触れて視野を広げる良い機会だと考えており、「直接将来に関わらなくても人生の糧にしてほしい」という思いがあるのだとか。

「医学部がゴールではなく、そこからが本当の学問の始まり。医療を志す学生には『命を預かる』という覚悟と、『人の痛みや苦しみを思いやる心』を備えて学んでほしい」と宮田先生。



## [歯学部]

しげ むら のり あつ  
**重村 憲徳** 先生  
歯学研究院 教授  
担当科目:口腔生理学

### 生きるために必要な メカニズムや口腔内の知識を養う

幼いころから人を助ける仕事に興味を持ち歯学の道を志した重村憲徳先生は、口腔生理学という分野で味覚について研究しています。味覚については五感の中でもまだ分かっていない事が多く、味覚障害の治療法や予防法、味覚障害から見つかる体の不調など、その研究は多岐にわたります。講義では、生物が「生きる」ために必要なメカニズムを学び、さらには味覚などの実験や座学を織り交ぜながら口腔内についての知識も養います。それは、歯学部の理念である「口腔から全身の健康に貢献する」ことにも結びついているとか。また、重村先生は、学生が受け身になりがちなオンラインの講義であっても「見る・読む・聞く・理解する・書く」を繰り返してくれるので、学生の「幹」となる知識がより定着していきます!

学生の皆さんには大学では勉強だけでなく、色々な事を自ら経験し知識を身につける中で、自分が本当に興味を持てるものを見つけ、その興味の専門性を高めてほしいと話します。

わたしたち学生スタッフが  
取材しました!



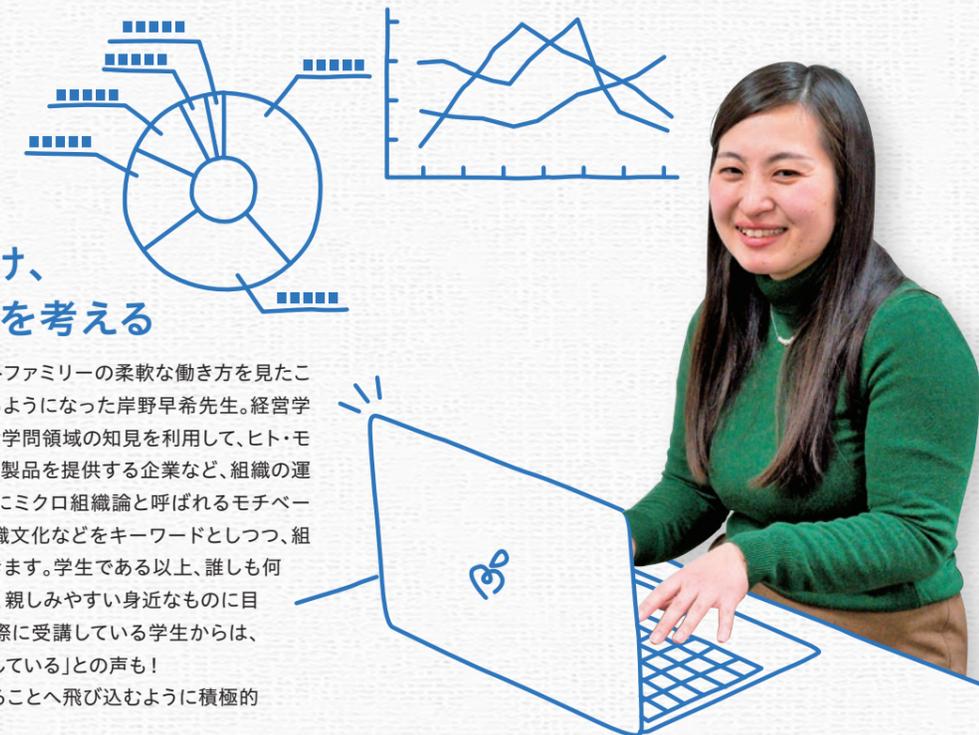
## [経済学部]

きの さき  
**岸野 早希** 先生  
経済学研究院 講師  
担当科目:経営学II

### 身近なものに目を向け、 組織の中の人の行動を考える

学生時代にアメリカへ留学した際、ホストファミリーの柔軟な働き方を見たことがきっかけで人的資源管理論を研究するようになった岸野早希先生。経営学は、社会学や心理学、経済学といった多様な学問領域の知見を利用して、ヒト・モノ・カネ・情報といった資源を投入し市場に製品を提供する企業など、組織の運営に関する学問です。先生の講義では、主にミクロ組織論と呼ばれるモチベーションやリーダーシップ、組織社会化や組織文化などをキーワードとしつつ、組織の中での人間の行動について学んでいきます。学生である以上、誰も何らかの組織に属しているという点に着目し、親しみやすい身近なものに目を向けるような講義内容になっていて、実際に受講している学生からは、「講義で学んだ知見をサークル運営に活かしている」との声も!

広く様々な分野を学びつつ、目の前にあることへ飛び込むように積極的に行動してほしいと岸野先生。



## [理学部]

ほそ かわ たか ひろ  
**細川 貴弘** 先生  
理学研究院 助教  
担当科目:野外実験演習

### 50年以上前から続く 生物学科の名物実習!

カメムシの腸内微生物に関する研究をしている生物学科の細川貴弘先生は、グループでテーマを決めて実際に調査を行い、得られたデータを元に発表をする野外実験演習を担当しています。現在は新型コロナウイルスの影響で、その調査の場は伊都キャンパスですが、例年は、宮崎県のえびの高原に行き泊まり込みで調査をし、伊都キャンパスに戻ってから発表をしているそうで、昆虫の個体数の推定や森林の植生を調べるものをはじめ、その調査の内容はさまざま。グループ発表のため学生はプレゼンテーションの力も身につきます!また、調査だけではなく宿泊場での炊事や洗濯もあり、大学生活での思い出の一つに。

盛りだくさん内容のこの実習は、50年以上前から場所を変えつつ行われており、生物学科の名物となっているそう。細川先生は、「他の講義、実習では経験できないことが多いので、安全対策も学びつつ、楽しんでほしい」と語ります。





### [芸術工学部]

まつ ひろき  
**松隈 浩之** 先生  
芸術工学研究院 准教授  
担当科目: ゲームデザイン



### ゲーム作りを通して 「気持ちよさ」「楽しさ」を 論理的に説明する力を鍛える

シリアスゲームという、商業用とは異なる、教育や医療現場などでゲームをしながら問題の解決に役立てる事を目指す研究をしている松隈浩之先生。そんな松隈先生が担当されている講義の一つに、ゲームをデザインする科目があります。ゲームを実際に製作するだけでも楽しいのですが、それを通して「気持ちいい」「楽しい」とは何かを知り、論理的に説明する力を鍛える事ができる内容で、自身が作ったものを効果的に伝えるのに重要なプレゼンテーション能力が養われます！昨今の情勢に伴い、ゲームのようなバーチャルの世界が注目されていると話す松隈先生。今後は、現実とバーチャルの世界をリンクさせるような構想もあるとか。芸術工学部を目指す人には、「さまざまな表現をたくさん見てほしい。そして、その表現がどのように作られているかを観察する力を養ってほしい」と。そして芸術工学部の学生には「『好き』を突き詰めて面白い事をしたいという学生同士、刺激し合いながら自立して学んでほしい」と話します。

### [農学部]

やす お  
**安尾 しのぶ** 先生  
農学研究院 教授  
担当科目: 飼料学実験

### マウスの飼育環境を変え、 行動の変化や脳の神経物質・ 代謝物の変化を研究

時間栄養学、光周性・季節のリズム、ストレスの3つのテーマを軸にマウスを使った時間生物学の基礎研究を行っている安尾しのぶ先生が担当する実習では、マウスに配合を変えた餌を与えたり飼育環境を変えたりすることで、行動の変化や脳の神経物質・代謝物の量の変化がみられるかなど、実際に自分の手でさまざまな分析をしたり、とても実践的な内容です！研究は、大学生活での講義にあたる、知識の「インプット」だけでなく、それを実習・実験で、自ら手を動かし自分の頭で考え、「アウトプット」することが大事だと安尾先生は話します。

九大農学部は1年次に専攻が分かれておらず分野を特定せずに学び、触れたうえで進路を選ぶことができるので、興味の翼を広げる機会に恵まれています。「今、あなたがその時々で何が一番面白いと思っているのか、どんなことにワクワクするのかを大切に楽しんで学んでほしい」と安尾先生。



わたしたち学生スタッフが  
取材しました！



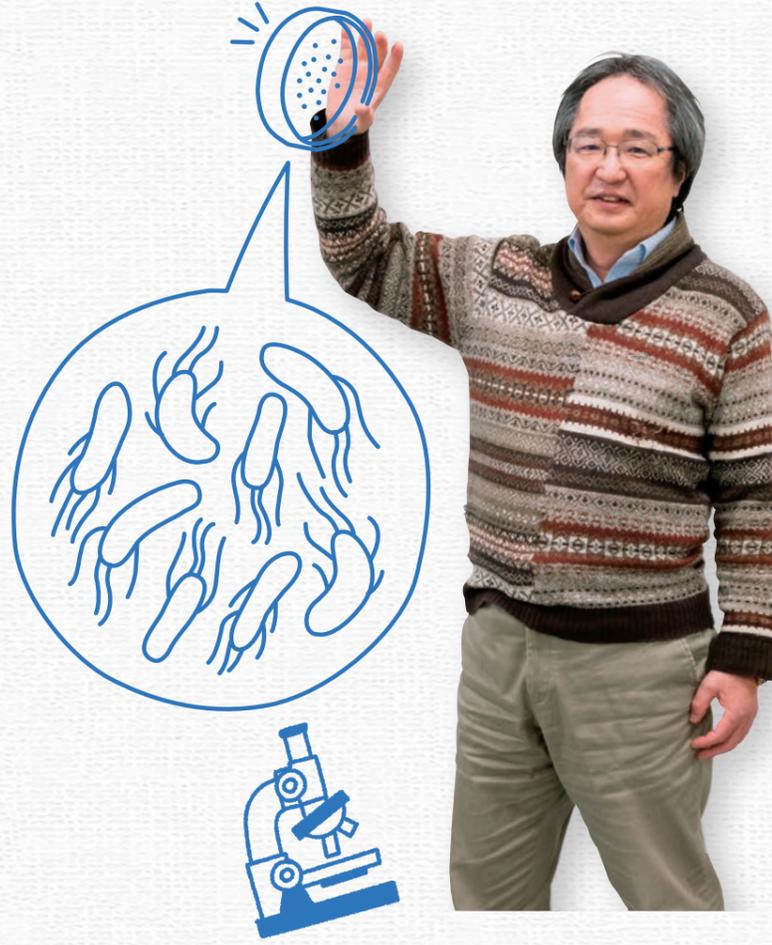
目黒 智将  
(芸術工学部3年)



重永 日向子  
(人間環境学府修士1年)



張替 創太  
(農学部4年)



### [薬学部]

かた やま つとむ  
**片山 勉** 先生

薬学研究院 教授  
担当科目: システム分子生物学

### 生物内で起きる複数の現象の 連携やDNAの複製を学ぶ

大腸菌を用いたDNA複製開始制御を遺伝学・生化学的側面から研究している片山勉先生は、実は理学部のご出身。理学部で学ぶうちにDNA複製や生物の多様性と法則性に興味を持ち、志す道が定まった先生は、大学院進学や留学を経て自身の「薬学」への理解がさらに深まり、現在に至ります。先生の講義では生物内で発生している複数の現象の連携と、先生の専門であるDNA複製について学びます。学生はこれまでに受けてきた講義で培った基礎的な知識を用い、ある現象同士が連携して発生している現象について体系的に理解することができます！知識を暗記するのではなく、理解し、実践できることが大事だと片山先生。これは創薬だけでなく、薬剤師の道を志す学生にとっても、自身で問題に気が付ける大きな力となるのだとか。受験生の皆さんには自分の好きなことに沿った大学を選んでほしい、そして新入生の皆さんには人生経験を豊かにするような活動や仲間作りに励んでほしいとエールを送ります。

### [工学部]

つち やま とし ひろ  
**土山 聡宏** 先生

工学研究院 教授  
担当科目: 鉄鋼材料工学

### 「鉄」をミクロとマクロの 視点から学ぶ

自動車や建築物などに使われる構造材料として、強靱な鉄鋼材料の開発を目指して研究を行っている土山聡宏先生の講義では、「鉄」を物理的な自然科学としてのミクロな視点と、実用的な構造材料としてのマクロな視点から学べます。先生はこの2つの視点を繋げることを意識し、学生には面白い学問であることが伝わるよう、楽しく話すことを心がけているそうで、平成30年度には工学講義賞(※)を受賞！「脱炭素が叫ばれ、工学の中でも必然的に二酸化炭素を排出する製鉄などの分野の将来に不安を感じる人もいるかもしれません。しかしこの状況は、従来の常識を覆すブレイクスルーを狙う大きなチャンスでもあります。社会のニーズも強力な追い風になります。新しい発想を持った若い人が新しい工学の世界を切り開くことを期待しています」と熱いお言葉をいただきました！

※工学部の専攻教育科目において、学生の視点に立ってよく準備された講義や、更なる勉強への意欲を刺激する講義など、他の教員の模範となる教育活動を表彰することにより、工学部の教育目標達成並びに教育の質の向上及び改善を図ることを目的としたもの。



疋田 弥紅  
(芸術工学部修士1年)



奥 大河  
(理学部2年)



勝部 菜摘  
(生物資源環境科学府  
修士2年)

コロナ禍の中、海外留学を体験した九大生に、留学先で  
どんなことを学び、どんな暮らしをしていたのか話してもらいました。



実際に制作したゲームをテストプレイしている様子

シンタクラスというオランダ版サンタを友人とお祝い!

# 世界から九大へ 九大から世界へ



今回はリトアニア出身のイグナス・チャビャーレーさんに、日本に興味を持った  
きっかけや現在の研究内容などをインタビューしました。



出身国:リトアニア共和国  
**IGNAS CEPELE** (イグナス・チャビャーレー)さん  
人文科学府 修士課程2年  
母国のヴィリニウス大学を卒業。その後2年間、旅行代理店などさまざまな企業で働きながら日本文化関連の活動に従事。2019年秋に来日。本学研究生として1年間過ごした後、2020年秋、九州大学人文科学研究院広人文学コース(IMAP)に入学。本年9月修士課程を修了予定。

My Favorite!

**俵 綾那さん**  
(たわら あやな)  
芸術工学府  
デザインストラテジー専攻  
修士2年  
留学国:オランダ  
留学先:HKUユトレヒト  
芸術大学  
期間:2021年9月~  
2022年1月

私は昨年9月より約半年間、オランダのユトレヒトにあるHKUユトレヒト芸術大学に交換留学をしました。ゲームデザインについて学びました。アナログゲーム、デジタルゲームを問わずさまざまなゲームをデザインし、一学期で合計8つの授業を受けました。  
コロナ禍の影響で一時は留学を断念するか悩んだこともありましたが、昔から日本にない文化の中に身を置くことに強く魅力を感じていたため、在学中に実現させていたと思い時期を一年間遅らせて留学しました。  
正直、授業が忙しく、途中ロックダウンもあったため、当初思っていた通りの休日を過ごすことはできませんでしたが、現地で知り合った友人に家に招かれて小さなパーティーに参加したり、皆で年越しをしたり、とても楽しく過ごすことができました。  
実は私はこれまで一人暮らしをしたことがなく、今回の留学が初めての経験です。これから社会に出たとき自分が一人でやっていけるのか漠然と不安に思っていたの

コロナ禍でも留学をあきらめない。  
今だからわかること、得られるものがある。

ですが、コロナ禍の海外で初めて一人暮らしをすることができたという事実が今後の私を支えてくれると思います。  
コロナは留学にも大きな影響を与えており、留学するのにも以前と比べて困難になりました。しかしこのような事態だからこそ見える日本と海外での差があり、むしろ今留学したからこそわかることも多くありました。今年の3月からはドイツのケルン応用科学大学にも留学しています。コロナがいつ収束するか未だ不明ですが、留学をあきらめる必要はありません。コロナ関係で手続きも増え大変なことも多いですが、それ以上に得られるものも多い留学だと思っています。まずは担当の先生方や学務課の担当の方からお話を伺うことから始めてみてください。



留学生のごはん事情!  
現地の友人と一緒にディナーを作りました!



フィールドワークの一環として参加した山伏体験



霧島の韓国岳でトレッキング



九重連山の山麓の長者原にて

## Q 九大を選んだ理由は?

日本の映画やアニメをきっかけに日本の文化や宗教・哲学に興味を持ち、特に日本古来の山岳信仰「修験道」に関心がありました。そこで、修験道を研究テーマにされているCARTER CALEB(カーター・ケイレブ)先生の元で学びたいと思い、九州大学を留学先を選びました。現在、指導教官としてご指導いただいています。

## Q 九大で学ぶ魅力は?

研究をサポートするリソースが豊かであることです。大きな図書館がありますし、フィールドワークに行く場合は資金的な支援があります。私は月に1~2回、英彦山に行きますので非常に助かっています。また、コロナ禍であってもトップクラスの研究者の方々と話を伺う機会があり、非常に満足しています。伊都キャンパスの自然豊かな環境も魅力です。

## Q 具体的な研究内容は?

福岡県の英彦山は、奈良の大峰山、山形の出羽三山に並ぶ日本三大修験道の霊場の一つです。江戸時代までは広く人々の信仰を集めていましたが、明治時代に修験道禁止令が発令され、英彦山の修験道は途絶えてしまいました。しかし、10年ほど前から英彦山を修験道として再現させようという動きがあり、私もその活動に携わりながら、現代の修験道のあり方について研究しています。

## Q 心に残った体験は?

一番心に残っているのは、九大に留学した直後、友人と参加した熊本で開催されたフェスティバルです。九州各地のお祭りを紹介するイベントで、さまざまなお祭りを体験することができました。また、昨年3月には、留学生が「伊勢」や「日本」について理解を深めるプログラム(「伊勢」と日本スタディプログラム)に参加し、世界各国から集まった人たちと、知識や興味を分かち合うことができ、とても良い思い出になりました。

## Q 留学後、成長できたと思うことは?

日本の文化や宗教に対する考え方が完全に変わりました。日本文化や宗教を額面通りにとらえるのではなく、なぜそうなったのか、動機づけについて考えるようになりました。また、物事を客観的に見てさまざまな方向から分析する力が身に付き、日本文化への理解も深まったと思います。

## Q 今後の展望は?

修士課程修了後は、日本で就職する予定です。コロナ禍の現在は厳しいところはありますが、インバウンド分野の仕事に携わりたいと思っています。語学力を活かし、観光業でツアーガイドのようなことをできればいいですね。9月に卒業しますので、これから就職活動です。秋までに内定をもらえるように頑張ります。

**University Information**  
ユトレヒト芸術大学 (HKU)  
アートやデザインについて専門的に学ぶことのできる、4000人以上の学生が在籍するヨーロッパで最も大きな芸術大学の一つです。所在地のユトレヒトは、オランダ中央部にあるオランダ第4の都市で、中心部には運河が流れ、オランダらしい街並みが広がっています。首都アムステルダムからも電車で30分ほどの距離で、ユトレヒトからはオランダ各都市やヨーロッパ各国への鉄道が運行され、オランダの交通の中心地となっています。九州大学芸術工学部/府との協定校で、協定を結んでいるHKUのGames and Interaction部門はプロジェクトベースの教育を行っており、企業や行政、教員、学生と共にチームを組んで、実践的にゲームやアプリケーションデザインを学ぶことができます。



副キャプテンを務めた軟式野球部。



教育学部 2019年卒業  
株式会社IHIインフラシステム  
**田坂 圭佑**  
た さか けい すけ

教育学部は専門性に  
縛られない、だから  
チャレンジできた

田坂 親会社に当たるIHIの説明会に参加したのがきっかけです。IHIは総合重工業メーカーで、スケールの大きなものづくりは完成したと大きな社会への影響や達成感が大きそうだなと思いました。例えば、橋をつくれれば地域の新たなシンボルとなり、多くの人が集まってくる。人を育てる喜びと同じような喜びを、ものづくりでも得られると思い入社を決めました。就活のとき、教育学部は専門性をPRしづらいところがありますが、業種業態に縛られないから何にでもチャレンジできます。いろんな企業の話聞いてみるといいですよ。

田坂 私は、ジェネラリストよりもスペシャリストになりたいと思っています。将来的には「この分野のことは田坂に聞けばわかる」と言われるような専門性を身に付け、自分の価値を高めていきたいと思っています。

田坂 直接的にはありませんが、藤田雄飛教授が授業でおっしゃっていた「人は教えたことが1回で伝わると思っているし、すぐに理解されると勘違いしてしまう」という言葉がずっと頭に残っていて、先輩に教えるときは1回で覚えられることを前提に、効率的な教え方を考えるようにしています。

— 将来のビジョンや目標は。

— 大学の学びで仕事に役立っていることはありますか。

田坂 当社は橋梁や水門などの鋼構造物をつくっており、私は調達部という部署で鉄板やボルトなど必要な資材を購入する仕事をしています。未知の分野でしたので、最初は知ることが楽しかったですね。

— 現在のお仕事の内容を教えてください。



研究室のみんなと糸島の牡蠣小屋に行ったことも。



聞き手 **木村 円香** 教育学部 4年

「文系」「教育学部」という肩書きにとらわれず、だからこそ「何にでもなれる」「知らないことを知れる」とポジティブに変換し、自らの信念をもって真摯に仕事と向き合う田坂さんの姿勢がとても印象的でした。自分のやりがいや目標を明確に持ち、それに向かって歩みを止めないことの凄さと価値を実感しました。私も4月から社会人として働きますが、田坂さんのように謙虚に、そして自信をもって仕事に取り組める人でありたいと心から思います。

※聞き手の学部学年は取材当時のものです。

病院実習での体験が  
今の私の原点



TAP LIVE 2017! みんな良い笑顔!!

薬学部 臨床薬学科 2020年卒業  
医薬品医療機器総合機構  
**松川 莉奈**  
まつ かわ り な

松川 医薬品の承認審査では臨床試験のデータを評価しますが、患者さんの数や投与期間など、安全性を見る上で限界があります。私は、承認後に医療現場で使われるようになった医薬品について、副作用報告などの情報からリスクを評価し、添付文書改訂など安全対策の措置を検討しています。

— 具体的な仕事内容を教えてください。

松川 厚生労働省所管の独立行政法人で、承認審査、安全対策、健康被害救済の3つの業務を行っています。その中で私は、安全対策に関わる仕事をしています。

— 医薬品医療機器総合機構(PMDA)とはどのような組織ですか。

松川 研究室ではアトピー性皮膚炎など、慢性的な痒みに関与する分子について研究していました。タップダンスのサークルでの活動やイタリアンのレストランでアルバイトなど、勉強以外にも充実していました。

— どのような大学生活を過ごされていましたか。

松川 昔から英語が好きで英語を使う仕事がしたいと思っていました。現在、国際的な業務に携わっていて、英語の研修にも参加させてもらっています。将来は、PMDAにおける安全対策業務の国際的な側面を担う人材になりたいと思っています。

— 将来のビジョンや目標は。

松川 企業では部署ごとに業務が細分化されているイメージですが、私が所属する部署では安全対策の一連の流れを経験できるので、一つの仕事をやり遂げたときは達成感があり、やりがいも感じます。また、厚生省通知の添付文書改訂など、1年目から重要な業務に携わることもモチベーションになります。

— やりがいを感じるときは。

松川 病院実習のとき抗がん剤治療の副作用に苦しむ患者さんに接する機会があり、医薬品の安全性に問題意識を持ったのがきっかけです。企業でも安全対策業務は行っています。より公正な立場で幅広い業務に携わることができると思いPMDAを選びました。

— PMDAに就職しようと思ったきっかけは。



サークル活動では松川さん(右)が振り付けた演目も上演。



聞き手 **照海 真子** 薬学部臨床薬学科 4年

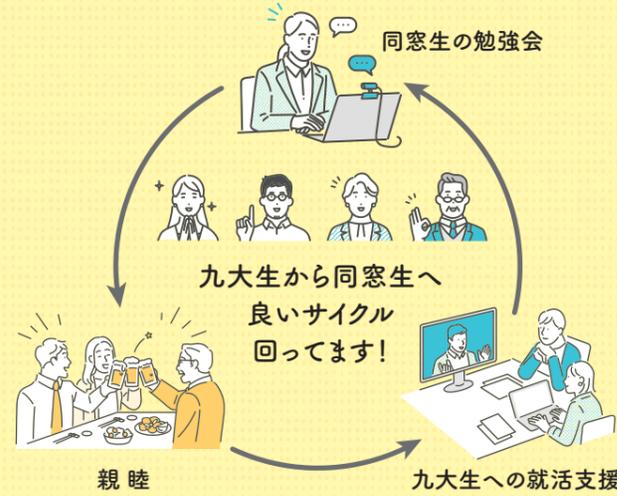
医薬品の安全性に関する業務に興味がある私にとって、実際に活躍されている松川さんのお話を聞くことができたのは貴重な経験でした。身近な問題がきっかけでこの職を選ばれたと伺い、将来の為にひとつひとつの機会を大切にして研究や実習に取り組みたいと思いました。

# 新卒20代からベテラン世代まで 全世代が楽しめる同窓会

今回は若手同窓生が積極的に活動に参加されている東京同窓会の榎崎事務局長と推進メンバーに



2018年パキスタン大使館訪問(大使が同窓生)



# がコンセプト!

お話をお聞きました。



サマーフェスタ2019の会場風景

## 大活躍! 20〜30代の 若手企画イベント

東京同窓会では、20〜30代の若手同窓生が企画するイベントが盛り上がりつつある。榎崎 はい。東京同窓会は約5600人が登録しているんですが、同窓会は親睦、就活支援、啓発・勉強会の3つの軸で活動しています。その中でも毎年8月に実施する「サマーフェスタ」が最大の親睦イベントです。多い時は300人以上の会員が集まる人気イベントなんです。参加者は20〜30代が半数を占め、この企画を行う推進メンバーも20〜30代のメンバーが中心です。竹之下 ただ、若い人たちが騒ぎすぎるとベテランの皆さんが面白くないし、堅

苦しいと今度は若い人たちが参加してくれませんか。イベントのプログラムは全世代が楽しめるようにかなり綿密に組んでいます。ゴールデンウィーク頃から、毎週水曜夜に、推進メンバーが集まって企画を考えられているんですよ。推進メンバーは20〜30代を中心に全員で15名ほど。この10年で延べ約100人の同窓生が携わってくれました。就活支援で事務局が支援した学生が、関東圏で就職し、同窓会の活動に加わってくれることも多いんですよ。

**実際に入社実績も!  
九大学生への就活支援**

九大学生への就活支援はすごく活発でいらっしゃるんですよ。どんな活動をされているんですか?

上妻 OB・OG(卒業生)訪問と就活セミナーを行っています。OB・OG(卒業生)訪問では、ホームページに訪問可能な卒業生の企業や性別、入社年などおまかな情報を公開し、そこから申し込みができるようにしています。卒業生の多くが東京で仕事をしているので、九大学生は志望する会社の先輩にアポイントを取るのが大変なんです。私も学生時代に活用させてもらってすごく助かりました。社会人になってからは訪問を受ける立場として関わっており、先輩が私の会社に入社したんですよ。すごくうれしかったですね。上京してすぐは知り合いがいなくて心細かったのですが、同窓会活動に参加したと言う人もいます。あまり構えず、一度覗いてみてほしいですね。

榎崎 この活動によって積極的に同窓会活動に参加してくれる人が増えていて、良い循環ができてきたなと思っています。

## 普段会えない人たちに会える! 異業種交流

九大学生にはとても心強い支援ですよ。もう一つの活動、勉強会「学び舎」についてはいかがでしょうか?

竹之下 不定期で年に4回ほど、社会的実績のある卒業生の方を講師にお招きして、勉強会を行っています。年齢制限は無いのですが、20〜30代の参加者が多いですね。直近では、今年2月に元内閣官房副長官の古川貞二郎氏にご講義いただきました。参加者同士の異業種交流の場にもなっていますね。

異業種の方と知り合える機会はとても貴重ですね。同窓会の活動をして良かったと思うことは?

竹之下 私は、普段会おうと思っても会えない人たちにお会いできるのがとてもプラスになっています。雑談を聞くだけでも勉強になるんですよ。また、「サマーフェスタ」は一つの組織をまとめていくようなものなので、マネジメントの勉強にもなっています。何より達成感があり、毎年終わった後にやって良かったと思うんですよ。業種に関係なく価値のある活動だと思っています。

上妻 会社で働いていると、どうしても思考回路が固まりがちですが、全く異なる働き方をしている人の話を聞く刺激になり、気分がされることも多いです。いろんな方と話しあって、何か一つやり遂げる、同窓会は第三の居場所ですね。不思議な連帯感があり、九大学生というだけで可愛がってくれる先輩がたくさんいますよ。

竹之下 忙しくても、ボランティアで同窓会活動に参加してくれる人たちがですから良い人しかいません。安心して飛び込んできてほしいですね!

## 榎崎事務局長に現在のように きっかけをお聞きました。

2004年に当同窓会が発足した当初は高齢の男性会員ばかりでした。もっと若い人たちも参加しやすい同窓会にすべきだ、と九大の理事会に提案したのが2010年。そこから私が事務局に加わり、同窓会のやり方を見直してきました。最初に仲間数と、基本コンセプト、目指すもの、行動指針の3つを作りました。同窓会の目的の一つは懐かしい学友と旧交を温めること。もう一つは職業や価値観が異なる同窓生との交流を通じて人脈を広げ、各自の成長につなげることです。新卒の20代からベテラン世代まで全世代が楽しめる同窓会を目指して活動してきたおかげで、現在は20〜80代まで幅広い世代が参加しています。コロナ禍でオンラインイベントを行うようになってから、首都圏だけでなく海外や関西、四国からも参加いただいています。

東京同窓会はどうして全世代が楽しめるの?

## 九大や九大学生ともしっかりつながりたい! 授業の講師も

お話を聞くだけでもとても楽しそうな同窓会ですね。今後同窓会の展望などありますか?

榎崎 大学からの依頼で始まったのですが、2年前から毎年、「キャリア形成基礎セミナー」という授業で東京同窓会のメンバーにも講師をしてもらっています。私自身も九大のカリキュラムに卒業生が参加できる仕組みを作るべきだと思っています。卒業生の学び直しの場としても九大を活用できると思います。いわゆるリカレント教育です。今後はより大学と深いつながりをもって互いに高めあっていきたいと思っています。

わたしたちが東京同窓会をご紹介します。



株式会社商船三井  
代表取締役  
上妻 諒子 さん  
経済学部 2016年卒業



クオリー株式会社  
代表取締役  
竹之下 一也 さん  
経済学部 2012年卒業



九州大学  
東京同窓会事務局長  
榎崎 光雄 さん  
法学部 1971年卒業



サマーフェスタ2018終了後、推進メンバーで浴衣で参加するとお得だったとか

この取材は、2022年2月11日、オンラインで行いました。記事中の役職名は取材当時のものです。



We are

# 広報室学生スタッフ

私たちは、九大の魅力を発信するべく、  
 九大広報やFacebookでの記事執筆・動画作成に取り組んでいます。  
 企画や取材、原稿執筆や編集などの活動をするなかで  
 普段知ることのできない先生方の思いに触れたり、  
 活躍する学生に取材をすることで  
 自分も刺激を受けたりと学生生活に彩りが加わりました。  
 日々アンテナを張り、「学生目線」を大切に  
 九大の魅力をお伝えしていきます！



広報室学生スタッフに興味のある方は広報室まで是非お問い合わせください。学生スタッフFacebook



九州大学総合研究博物館には100万点を超える昆虫の標本があります。現在、旧工学部本館の2階と3階に複数の標本室があり、それぞれで整理作業を行いながら、ボランティアや技術職員の手助けを得て、管理を行っています。昆虫標本開示室では、それらのごく一部を、とくに世界の美しい種に焦点を絞り、九大にある古い木製什器と

ともに展示しています。正面には古い本棚を配置し、分類群ごとに小箱に入れて、金属光沢のあざやかな甲虫を展示しています。箱はドイツ型標本箱という日本の博物館や収集家では広く使われているもので、標準は50×40センチの大きなものですが、小箱はその1/4程度で、装飾用に作られた小さなものです。

## 箱崎だより

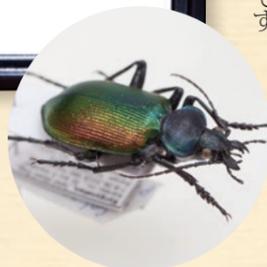
～昆虫標本開示室の標本資料～  
**「世界の美しい昆虫」**

九州大学総合研究博物館 准教授

丸山 宗利

ドイツ型標本箱についてもう少し補足すると、古い時代にドイツで使われていたといわれる形式の箱で、密閉性が高く、日本の湿潤な気候でも、標本にカビが生えにくいなどの利点があります。当館では貝類や考古遺物などの展示にも流用していますので、来られる際にはそこに注目してみるのも楽しいと思います。ちなみに、ヨーロッパは日本に比べて乾燥していて、標本も管理しやすいので、標本箱はここまで気密性は高くありません。手前には大型の標本箱を3つ置いてあります。これは別の博

上/コガネハムシのなかま  
 右/ニジカバヒロオサムシ



大型のアゲハチョウのなかま

物館の展示で使われた什器の「おさがり」で、ニス塗りをしそこに針を刺すためのポリフォーム板をはり、密閉性を高めて標本箱としました。大きくて美しいチョウや、甲虫の多様性がわかる箱、さらに古い未整理の標本箱を展示しています。その他、ドア付近には、昆虫担当の丸山が撮影したさまざまな昆虫の表面構造の拡大写真、さらには灯火採集光を灯して虫を集める方法の機材や採集道具なども展示しています。小さな部屋ではありますが、ご覧いただければ、昆虫の美しさや多様性の魅力の一端を理解いただけるのではないかと思います。



昆虫標本開示室全景